



これからの医歯学総合病院

新潟大学医歯学総合病院副院長 齊 藤 力

この度、平成19年4月1日付けで医歯学総合病院副院長（歯科担当）を拝命いたしました。前任の宮崎秀夫教授は最後の歯学部附属病院長として、平成15年に行われた医学部附属病院と歯学部附属病院の統合による医歯学総合病院の誕生にご尽力され、現在の診療体制を確立されました。その後任として重責を痛感しておりますが、微力ながら医歯学総合病院ならびに歯学部の発展に少しでも寄与できればと考えております。

医歯学総合病院は医学・歯科医学が相互に連携した全人的医療・臨床教育・研究の実践、ならびに患者中心の医療を目指しておりますが、とくに医歯学総合病院歯科の使命は、①安全・安心な歯科医療の提供、②最先端の歯科医学・医療の研究開発とその臨床応用、③有能な歯科医療人の輩出ならびに高度専門医療人の育成、④地域医療への貢献などであると考えております。病院統合により歯学部附属病院時代よりも医科臨床各科との連携がスムーズ行われるようになり、高齢者を中心とした種々の疾患を有する患者に対しても、より良質で安全な歯科医療の提供を行うことが出来るようになりました。また医歯学総合病院の生命科学医療センターの中に再生移植部門ができ、現在3つのプロジェクトが進行しておりますが、そのうちの2つは歯科を中心としたものであり、先端医療の臨床応用に積極的に取り組んでおります。平成18年度から歯科の臨床研修が義務化されましたが、本学のみならず、全国の歯科大学・歯学部

を卒業した臨床研修歯科医師が当院で研修を受けています。魅力ある臨床研修プログラムのもとに有能な歯科医師を育成すべく、歯科総合診療部を中心として熱意ある臨床研修医教育が行われています。優秀で人間性豊かな心を持った歯科医師を育成することこそが将来にわたって質の高い歯科医療を提供することにつながるものと確信しておりますが、教育にはかなりの手間がかかります。日々の診療と同様に全教員が一丸となって“後輩を育てる”ことに取り組むことが出来る環境を作り出していきたいと考えております。また超高齢社会を迎えるなかで、その必要性が高まっている、「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から保健・医療・福祉を総合的に思考・マネジメントできる歯科衛生士と社会福祉士の2つ資格を持つ専門家を養成することを目的として平成16年に新設された4年制の口腔生命福祉学科の学生に対して積極的に臨床実習、臨床教育を推し進めていきたいと考えております。また地域歯科医師会との連携をより強化し、地域住民の健康生活を守るために必要な医療にかかわるさまざまな問題について当院歯科医師と地域開業歯科医師とが行う共同参画型の研修システム構築を考えております。さらに病院完結型医療から病診連携、病病連携を強力に推進する地域完結型医療への転換をはかることにより地域歯科医療への貢献に邁進する所存です。